

長坂ふれあいの
まちづくり協議会
&
神戸学院大学
ボランティア
活動支援室

地域と大学をつなぐ防災情報誌

vol.14

2024
autumn

いっせーのせ

発行

この人に会いたい！

写真上：上谷聡子さん。どんな質問にも、丁寧に答えて下さる姿が印象的でした。

下：神戸の港で受講生と共に、マラソンに向けて円陣！

神戸学院大学 共通教育センター准教授

上谷 聡子 さん

06

今回は神戸学院大学でスポーツ科学を教えられる上谷聡子さんです。第1回神戸マラソンの女子優勝者の上谷さんに、自身のキャリアを活かした活動についてお聞きしました。

__先生のご専門は何ですか？

マラソンランナーとしての実績を生かして、初心者のためのマラソンのコーチングを実践しています。女性のスポーツ振興に関心があり、大学ではスポーツ科学の講義、実技を担当しています。

__今年9月に能登半島被災地へ引率者として行かれますが、動機を教えてください。

被災地支援は、ずっと何かできないかと思っていました。そんな折、大学から引率の誘いがあり、自分の得意分野を生かして被災地に貢献できればと承諾しました。

__得意分野での貢献と言えますと？

被災者の方に「運動習慣」をもっていただくようなサポートができないかと思っています。避難所や仮設住宅での生活は運動不足になりがちではないかと推測しています。そこで、学生と一緒に手軽にできるストレッチや筋トレなどを体験いただければと思っています。

__短時間の支援で、効果は期待できるのでしょうか？

そうですね。でも、簡単な「運動マニュアル」をお渡しするなど、自分たちでも継続できるような工夫は必要かと思っています。健康運動は動画サイトにもたくさんありますが、「神戸の学生達と一緒にやった」という経験が運動へのモチベーションになると思うのです。

*

マラソン競技の実践者として、スポーツが人々を繋げる力を信じています。今回の経験を生かして、運動やスポーツを活かした被災地支援活動にチャレンジしていきたいです！

(2024年8月27日収録)



長坂地域ブロック防災訓練 開催！

2024年7月21日（日）午前、「長坂地域ブロック防災訓練」（主催：長坂ふれあいのまちづくり協議会・長坂校区防災福祉コミュニティ）が長坂地域福祉センターにて開催されました。参加者は計74名で、世代間交流の中で、防災の知識を学べるよい機会となりました。

写真1.放水体験、思ったより重さがあります！
2.ジャッキを使って、少しずつ上げていきます。
3.心臓マッサージ
4.みんなでカエルさんを救護！



防災訓練は、まずは屋外で消防団による消火訓練と放水訓練がなされました。当日は、晴日で、日差しがきつく予定より早く切り上げられましたが、それでも、長坂ジュニアチームの小学生たちは積極的に参加していました。「想像していたよりも放水ホースが重くて大変だった」と言っていました。実際は、子どもたちが率先して消火活動を行うことにはならないかもしれませんが、重い放水ホースを手にした経験は貴重な体験になったと思います。緊急時は、皆の力を寄せ合うことが求められるからです。



小学生も救援者になれる

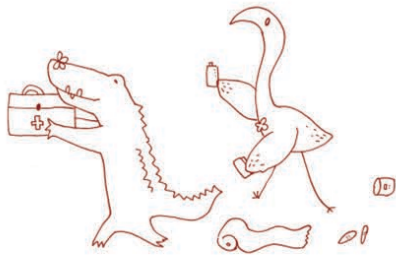
消防団の方にインタビュー

——防災訓練で伝えたいことは？

火事を見つけたら自分一人で対応するのではなく、周りの人に助けを求めてほしい。コロナ禍で声を出すことを制限されて育った今の若い世代には、いざという時に声を出して助けを求められるようになってほしい。何より、自分の身は自分で守り、命を大事にしてほしい。

——火災の時、最も大切なことは？

火を消すことはもちろん大切だけど、まずは怪我がないようにしてほしい。その場を冷静に判断できるようになってほしい。そのための消火活動訓練である。訓練することによって、いざという時のパニックを未然に防げると思っている。



屋内での訓練では、AEDを用いた救急救命訓練とジャッキアップ訓練が実施されました。AED訓練は震災の時だけでなく日常生活でも使用する機会があります。インストラクターや消防団の方が丁寧に指導しておられました。子どもたちからは「難しい」という声も上がりましたが、「手順はある程度理解することができた」という頼もしい感想も聞くことができました。

最後に、参加されていた西区役所の方に、地域の取り組みについて、行政の立場からのご意見をお伺いしました。「地域でこういった災害についての知識を共有できる機会があるのは素晴らしいことだと思う。日頃からの地域のつながりがあることで、災害時に助け合うことができるし、心強いと思う。この仕組みを他の地域にも広めていきたいと感じた」とのご意見をいただきました。

*

取材して感じたことは、地域の方と交流することは命を救うことに繋がるということです。長坂地域では防災訓練を通して地域交流の場を提供しています。このような活動がもっと活発になり、世代を超えて防災に向き合うことが必要だと思いました。

(学生記者：人文学部3年 磯部 翔)



こんな活動あんな活動

高齢者の方々と 夏祭りを楽しもう！

「人暮らしの高齢者と大学生の交流を目的にした「高齢者の方々と夏まつりを楽しもう！」が8月24日、有瀬キャンパスに近い高層住宅集会所で行われました。このイベントは、ボランティア活動支援室が実施しているサマーボランティアプログラムの一つで、同室の学生スタッフ医療班が企画して、地域の方には懐かしい夏まつりの遊びを再現しました。

本学の学生7人と住民15人、計22人が参加しました。学生が住民の方とペアを組んで金魚すくいと輪投げを楽しみ、学生は声をかけて応援しながらお手伝いをしていました。

また、風鈴作りを行った際は、高齢者の方が積極的に参加して、大学生や顔なじみの人と話をしながら一緒に色を塗ったりシールを貼ったりするなど、「楽しいね」と笑顔で話す方もおられました。

今回、学生スタッフとして医療班の活動に参加した学生は「普段関わりのない世代の方と交流をしたことがとても貴重な経験になりました」と話してくれました。参加した学生は自分の意外な一面や活動に対する反省にも気づいたそうです。今回の経験が医療班の活動や将来の学生生活に生かされることを期待します。

(神戸学院大学Facebookから)

神戸学院大学 大学祭で 被災地応援物産展 します！



東北のB級グルメを学生が調理



ここでしか買えない物産を販売！



子どもコーナーあります

11月 1日・2日:ポートアイランドキャンパス
11月 3日・4日:有瀬キャンパス

神戸学院大学の大学祭が11月1日～4日に開催されます。前半2日はポートアイランドキャンパスで、後半2日は有瀬キャンパスです。学生スタッフ災害班は「被災地応援物産展」を実施。毎年恒例の「石巻焼きそば」(宮城県のB級グルメ)、能登半島被災地等の物産を取り寄せて、販売します。ここでしか買えません。ぜひ、お越しください！



米飴 (能登町)



がんばろうクッキー
(穴水町)



おだまき (宝達清水町)



米粉かりんとう (羽咋市)

いっせーのせ！



いっせーのせ
VOL.14

2024年10月1日発行

防災情報誌「いっせーのせ」は長坂ふれあいのまちづくり協議会と神戸学院大学ボランティア活動支援室が年4回発行する情報誌です。学生が記者となり、地域のフレッシュな情報を発信していきます。

Publisher
長坂ふれあいのまちづくり協議会
神戸学院大学ボランティア活動支援室

Contact
神戸学院大学 ボランティア活動支援室
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL:078-974-1551 (大学代表)
E-mail: kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp